

3

アリストテレスの動物誌について

142-004814-1 松山 和弘

2016 年 5 月 18 日

1 動物誌の構成

「動物誌」は全 10 巻あり、以下の構成となっている。

- 1 巻 1-6 章 総論
 - 7-15 章 人体の外部
 - 16-17 章 人体の内部
- 2 巻 1-9 章 胎生 4 足類の外部
 - 10-11 章 卵生 4 足類の外部
 - 12 章 鳥類の外部
 - 13 章 魚類とイルカの外部
 - 14 章 蛇類とゴカイ等の外部
 - 15-17 章 有血動物の内部
- 3 巻 1 章 有血動物の内部
 - 2-22 章 有血動物の等質部分
- 4 巻 1 章 無血動物の諸類、軟体類とその部分
 - 2-3 章 軟殻類とその部分
 - 4 章 軟皮類とその部分、ヤドカリ類
 - 5-7 章 無血動物の類
 - 8 章 (生物全般の) 感覚
 - 9 章 (生物全般の) 音と声
 - 10 章 (生物全般の) 睡眠と覚醒
 - 11 章 (生物全般の) 雄と雌の相違
- 5-6 巻 生物全般の生殖
- 7 巻 ヒトの生殖
- 8-9 巻 動物の心理、生態、病理
- 10 巻 ヒトの不妊症について

8 巻以降は、偽書の可能性があると考えられている。

2 動物誌の論述方法

「動物誌」は、先ず、人体の外部(頭部、胸、腹、...)について述べる。次に、人体の内部(脳、気管、食道、心臓、...)について述べる。そして、胎生4足類の外部(イヌ、ウマ、ヒト、...)、鳥類の外部、魚類の外部等について述べる。次に、これらの動物を有血動物として共通に扱い、有血動物の内部(食道、気管、肝臓、...)について述べた後に、有血動物の等質部分(生物を解剖学的に細部まで観察すると、例えば肉、骨、筋のように、これ以上分割しても等質となる部分)について述べる。

「動物誌」は、次に、無血動物(軟体類、甲殻類、有節類、殻皮類、最下等の植物に近い動物)について述べる。有血動物では、外部を論じてから、類ごとの内部、有血動物の「等質部分」の順序で論じている。無血動物では、類ごとの内部を論じてから、外部を論じており、有血動物とは論述の順序が逆になっている。

4巻8-11章では、感覚、音と声、睡眠と覚醒、雄と雌の相違を論じているが、生物全般を対象としている。

5-6巻は、生物全般の生殖を論じている。ここでは、生物の類ごとに論じており、有血動物と無血動物ごとに区別は行っていない。

以上より、「動物誌」は、論述する対象ごとに、生物の分類方法や論述順序を柔軟に変えていることがわかる。また、この分類方法や論述が、「四原因論」の枠組みで行なわれていると考えられる。

3 動物誌の科学的正確さ

「動物誌」は、生物の生態や、解剖学的な観察結果の「科学的事実のみ記述する現代の科学的な文書」のような形式となっているが、科学的に誤った記述は多い。

アリストテレスは、海洋生物等は、実際に観察したと考えられるが、その他の解剖や観測が困難な生物については、情報収集や推測によって、「動物誌」を記述したと考えられる。

これは、情報の正確さよりも、「生物全体を網羅した体系立て」が、「目的論的自然観」を基礎付ける資料として必要であったからであると考えられる。

参考文献

- [1] アリストテレス「動物誌上」島崎三郎訳「アリストテレス全集7」岩波書店1968年
- [2] アリストテレス「動物誌下」島崎三郎訳「アリストテレス全集8」岩波書店1969年